

北斎かわらばん

すみだ北斎美術館ニュース

第5号

平成21年(2009年)6月発行



『すみだ』と『北斎』

— 津軽屋敷 —

葛飾北斎が生まれた約二五〇年前、本所割下水(現在の北斎通り)の周辺には、旗本・御家人たちの住居にまじってひととき大きな大名屋敷がありました。弘前藩(津軽家) 四万六〇〇〇石(のちに一〇万石)の上屋敷です。

貞享五年(一六八八年)、四代藩主津軽越中守信政のぶまさが、幕府から七〇〇〇坪(二万三〇〇〇㎡余り)の屋敷地を与えられました。それは、現在の緑町公園を含み、北斎通りから京葉道路までの南北に細長い屋敷地でした。

この津軽屋敷の存在が、本所に多くの人々を集めました。四代藩主信政は、儒学者の山鹿素行やまがそこうを師として学問を修めましたし、五

代藩主信寿のぶひさは、絵師の尾形光琳こうりんや、漆芸師の小川破やぶ笠りょうを支援しました。また、十一代順承ゆきつぐの代に侍医であつた渋江抽斎しぶえちゅうさいは、蔵書家として有名で、後に文豪森鷗外の著書によって世に知られるようになりました。



錦絵「两国夕涼」(大判)

北斎も、藩主から屏風を描くことを依頼されたことがあります。一旦は固辞したものの、数か月後に、北斎自らが屋敷に立ち寄り、屏風に野馬群遊の図を描いて帰っていったというエピソードが残されていますが、残念ながら、この屏風は現存していません。

北斎は、この津軽屋敷から程近い両国橋や花火をよく描いています。「两国夕涼」と題されたこの錦絵もその一枚です。

河原へ夕涼みに来た親子の頭上では花火が輝き、対岸はすでに暗くなってきています。のどかな夏の夕暮れが描かれています。

【発行】
墨田区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
☎03-5608-6115

【編集協力】
財 墨田区文化振興財団
北斎担当

すみだ

すみだ

正式名称は「すみだ北斎美術館」に

現在、開設準備を進めている「墨田区北斎館（仮称）」の正式名称については、区民や専門家などからなる「墨田区北斎館（仮称）名称検討委員会」を設置し、同委員会での審議結果を踏まえて「すみだ北斎美術館」に決定しました。

この名称は、

- ① 施設の基本理念や事業目的との適合性
- ② 普遍性・持続性の高さ
- ③ 固有性
- ④ ITの進展に対応する名称であること
- ⑤ 国際性への配慮

を評価基準とし、さらに、墨田区らしさがあること、覚えられやすいこと、発音しやすいことにも配慮して選定したものです。

今後は、多くの皆さんに「すみだ北斎美術館」の名称に親しんでいただけるよう、普及事業などを通じてPRに努めていきます。

建設予定地の紹介



「すみだ北斎美術館」は、都営地下鉄大江戸線両国駅の東側約四〇〇mの場所にある緑町公園内に建設される予定です。

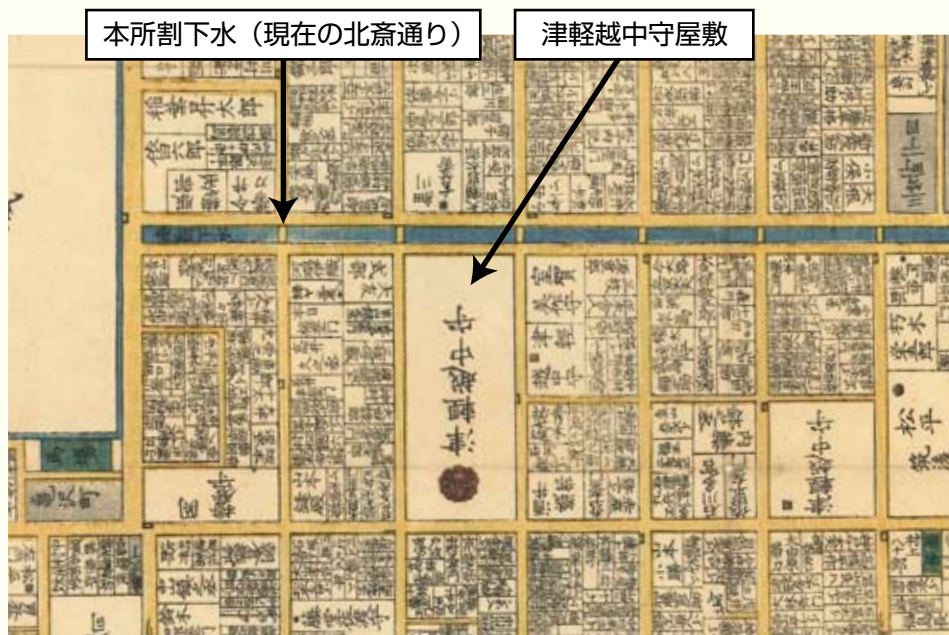
この場所は、北斎生誕の地に近く、さらに、本紙表面おもてでご紹介し

た津軽屋敷跡の一面でもあることから、北斎とはゆかりの深い土地であるといえます。

【所在地】 亀沢二丁目7番

【敷地面積】 約一二五四㎡

【延床面積】 約三三〇〇㎡



安政2年(1855年)改正「本所絵図」より、津軽屋敷付近

開館までのスケジュール(予定)

- 平成21年度 建築基本・実施設計
- 平成22年度 建築着工
- 平成23年度 建築工事完了
- 平成24年度 開館